

## 第2回 おかやま創生有識者会議（第2部）会議録要旨

### 【足羽副知事】

人口ビジョンは総合戦略を実効性のあるものとするため、本県における人口の現状や将来の姿などについて、広く県民と認識を共有するために策定するものである。本日は、皆さま方の忌憚のないご意見を賜りたい。

総合戦略の具体化に向けた検討の参考とさせていただくためにも、人口の将来展望に限らず、本県のグランドデザイン、将来のあるべき姿などについても触れていただければと思うので、よろしく願います。

### <人口の将来展望について>

### 【総合政策局長】

要点説明

### 【河島委員】

久米南町を中心に私の物差しでお話させていただく。60年前、11,000人だった人口は、今は約5,200人。社会の構造により、どうしようもなかったと認識しているが、何とかしなくてはいけない。町や地域には、結婚、出産、子育ての切れ目ない施策があるが、それぞれの町が知恵を出して、ある限りの財源の中で支援している。

移住の受皿として、空家がどんどん増えている中、十分な予算ではないが、修繕にも対応している。移住には、働く場所の受皿づくりが必要だ。自然が豊かで、学校へのスクールバスや交通機関もあるが、働く場所には困っているのではないか。定年退職しての移住は、それなりに生活できるが、子育てするには、仕事がないといけない。農村なので、労働力も高齢化し、農業は疲弊している。やはりプラスアルファで1種か2種の兼業でないとやっていけない。中山間地域や棚田をどう守っていくか。その中で、IターンやUターンで戻った人の生活をどのようにサポートするかが重要だ。県が要所、要所に働く場所となる拠点をつくって、働く場所を整備する必要がある。

### 【金澤委員】

結婚しない理由としては「適当な相手にめぐり合わない」が多いが、経済的理由が大きいのではないか。結婚だけでなく、子どもを産み育てるにおいても、経済的部分がウエイトを占めることがデータではっきりしている。子育てと仕事の両立もデータとして出ている。私の周りでも、夫がフルタイムで勤務し、妻はパート勤務の場合は、経済的にはそこそこ安定しており、子どもは2、3人いる。両親ともフルタイムの場合は、経済的には安定しているが、子育てがなかなかできないので子ども1人のケースが多い。人口減少を食い止めるためには、経済的問題と子育てを行政としてどう支援するかという、2つの柱をしっかりと立てていくということが重要になる。

貧困と教育との関係が社会問題になっているが、貧困世帯の学力の低さは、データにはっきりと出ている。学力を上げるためには、貧困をどう解消するか。貧困家庭でも勉強ができる環境をどう作っていくかが求められていく。いわゆる貧困の連鎖が起こることもあるので、社会で通用する能力を養うための公教育と就学支援をきちんとやらないと、底が抜けたままになるのではな

いか。プランの中で、しっかりと決めていただきたい。

以前、地方分権が盛んに言われ、東京一極集中を何とかしなくてはいけないと言われたにも関わらず、その後ほとんど何もされていない。国がしっかり自分たちの姿を見せないと、いくら地方が頑張っても、国にその気がなければ、本末転倒だ。県から国への要望していただきたい。

人口の将来展望に合計特殊出生率が書かれているが、「岡山いきいき子どもプラン 2015」の中にも 2025 年に 1.72 と書き込まれている。私は書くべきでないと思っている。行政が「産めよ、増やせよ」とやっているということに繋がりがかねないので、取り扱いには慎重にお願いしたい。

### 【日下山陽新聞社取締役編集局長】

個人的には、税金で婚活事業をするのはいかなものかと考えている。既にお節介クラブやNPO法人がある。プライベートな問題であるので、民間に任せればよいと考えている。我が社でも社内結婚が増えているということは、要するに出会う機会がないということだ。「適当な相手にめぐり合わない」「仕事と子育ての両立が難しい」ということは企業として反省すべきことだ。

ヨーロッパでは育児休業を男性が強制的に割り当てる制度を設けているが、女性の社会進出を進める上では、男性が家事負担をしたり、企業もできるだけ労働時間を少なくし、出会いのチャンスを増やせるよう、また、男性も育児休業を取れるように、民間も進めなくてはいけないと思った。高梁市は3人目の子どもには祝金を出している。即効的な言い方だが、できるだけ多くの子どもを産んでもらうためには、多子世帯への公的な補助や支援があってもいいのではないかと。国もそういう方向性を打ち出しているのだから、是非考えていただきたい。

岡山は関東圏から人気の移住地である。東日本大震災の岡山への避難者は約 1,120 人で、西日本では最多である。また、潜在的に岡山に移住したいという方もたくさんいると思う。県や岡山市などは、相談窓口を充実させている。「うけいれネットワークほっと岡山」など民間も受入窓口を立ち上げており、移住の受け入れという意味では、岡山は非常に先進県だ。

岡山理科大学が実施した、原発で避難された方へのアンケート調査で、問題点として浮かび上がったのは、母子・父子世帯でやむなく移住した方は、生活に不安を抱えているという結果が出ている。原発事故に伴う避難者で、特に母子・父子世帯に支援の目を広げて、支援の場を広げていくと、岡山よりアピールもできるので、配慮いただければ思う。

「経済的に負担が大きいため結婚しない」とあるが、我々の時代はもっと貧しかったが結婚している。今の方が経済的にはまだ裕福ではないかと思う。

### 【小椋委員】

阿波地域は、いかにして今の地域を守っていくかということで頭がいっぱいだ。空家を確保して、それに人を呼び込む以外に人口を増やす手はないのではないかと考えている。空家は増えるばかりで、早く手入れをしないと、年々古くなり修繕費も高くなる。何とかこの空家対策を行政でやっていただきたい。インターネット等で盛んに阿波地域を情報発信してくれる若者がいるので、岡山よりも東京の人の方が阿波地域をよく知っているのではないかという声も出ている。旧阿波村時代からの建物もあり、3～4世帯のお試し住宅があったが、それも一杯になり、これからは空家を探す以外方法がないという状況である。この春にも6世帯12人の移住があったが、地域で結婚したという話、子どもが生まれるという話もないので、とにかく外から人を入れ、それを地域の活性化に繋げる以外に方法がない。

そうした中、阿波地域が国土交通省の「小さな拠点づくり」のモデル地域に指定されたので、小学校の跡地、市の出張所の空部屋、休園の幼稚園をいかに活用するか、地域の皆さんが出入りしやすいものに変えたい。

地域内を1回約100円でお年寄りの人を運ぶ過疎地有償運送をしている。周辺の高齢者が中央へ行け、生活に不安がないようにしないといけない。

### 【足羽副知事】

自然増減、社会増減のいろいろな原因をお聞きしたが、やはり住居、職業、収入が根本的な問題になると思う。地域性や県北、県南の場合では、それぞれ住宅事情等も違う。県北では地域づくりそのものが社会を守るための方策になり、逆に、県南では、「家が狭い」「住居がない」という方向になってくる。県全体では地域性を見ながら、きめ細かい方策を立てなければいけない。そのためには、県だけでは太刀打ちできない。婚活も含めて民間でできることは民間の力を十分活用する必要があると思っている。

確かに国の遷都の話はなくなり、最近では政府機関の地方への移転をどうするかという議論になっている。それで果たして本当に地域づくりができるのか、どれほど地域の発展に役立つのか個人的には思うところもある。遷都の話も含めて、政府機関の移転が地域振興に役に立つ形になるよう、これからいろいろ取り組んでいきたいと思っている。

将来人口の出生率にはいろいろ考え方ががあるので、慎重に検討させていただきたい。

### 【加藤委員】

私たちは100年後を見据えて未来を創造しなければいけない。私たちNPOでは一人一人にそういうことを問い続けている。子どもが2、3人いる女性は約100人。無償・有償ボランティアのスタイルで、子どもを預ける人もおり、母親は仕事、子どもたちは別の部屋で安全に遊べるようにしている。20代から60代で先輩が子どもを預かることで仕事と子育てを両立している。不安や悩みは、年齢の幅があるので聞くことができ、組織は小さいが、結婚や子どもも産んでいる。NPOも仕事になることを、少し分かっていただけのように感じている。

NPOを立ち上げた8年前は講演会の参加はほとんどが男性だった。それは子どもを連れて行けないという価値観があったからだ。この会議も子どもを連れてきてはいけないと思うが、内容は「子どもが大事だ」というもので、ギャップがある。会議に子どもを連れていける包容力のある所と、会議に子どもを連れていけないが子どもを増やそうという所、人はどちらに行きたいか。私の講演会や研修会では、子どもが会場を走っているが、大人は集中し、地域の未来を考えている。それを見る子どもは、大人たちに守られて、伸び伸びしている。そういう空気や考え方を広げること、子どもを増やすとか、子どもを産み育てやすい場所にする一つの方法ではないか。

スウェーデンの教育費はゼロだ。転校、飛び級もでき多様だ。日本の教育費は高く、子どもを育てるのは個人に委ねられ、大人になると社会に返す、社会に奉仕をするような感じがする。もっと繋がりがあれば、子どもは社会の宝で、子どもにお金をかけることは社会に対しての投資だという意識になる。県も何か一つ事業をやめて、教育費をゼロにすると、みんな岡山に来る。それぐらいの姿勢、大人の姿、危機感を形に表すことは大事なのではないのか。

結婚のスタイルも多様になると、女性たちは生き生き働けるのではないか。未婚、事実婚、どんなスタイルも認められる社会、家でもどこでも働けるスタイル、その代わり、結果を出す。

コンパクトシティ、高齢者が集まり、医療や福祉を受けることも一つのスタイルだ。都会から親子が田舎に遊びに行き、農作業を手伝う代わりにお年寄りに子どもを見てもらい、対価としてそこでできた農産物をもらう。お金ではないが、食べるものも資本。見えない資本をいただき、安心と安全をもらって帰るといった循環もできるような気がする。多様なスタイルを念頭に置いた、ものの見方をしてはどうかと思った。

### 【須山委員】

私たちは、「男女の出会い」をテーマにイベントを開催している。今の結婚の波は20代終わりにあるかどうかで、もしかすると結婚の波自体がない。特に30代の男性はいろいろ問題があると前回お話しした。タレントを呼んで講演会もしたが、自分が間違っていると思っていない男性は来ない。本人たちはそれが間違っていないと思っているので、教育システムが成り立たない。今は、ラインやフェイスブック、SNSで一人でもいいという環境ができています。自分は友達がいっぱいいると思っているが、現状はバーチャルな友達であり、考え方が段々といびつになる人が増えていることを感じる。国の調査では、お見合い結婚した人が5%、何らかの恋愛結婚が88%という数字が出ていた。9割は恋愛をしない限り結婚できないというのが現状だ。私たちもお節介おばちゃんのシステムを導入している。先週も児島でイベントをして、4割の人がカップルになったが、その先が続かない。カップル率は上がっても、婚姻率はそこまで高くない。しかし、出会いの場を作らない限り、結婚に至らないので、私たちはこれからもそういう取組をしていく。

10代後半で恋愛のスキルをうまく身に付けられなかった人は格差が付き、結婚する人は早く結婚し、できない人はいつまでたっても結婚できない。何回か参加していくうちにスキルを身に付け、楽しんでいただきたいと思っている。男性だけに問題があるわけではないが、間違ったやり方をいくらやっても女性には嫌われるだけだ。昔であればお祭りなどで幅広い世代から学ぶことができたが、今は学べなくなっているのではないのかと思う。

結婚式の上司の挨拶で「結婚は墓場だから、もう遊べんぞ」とあるが、やめていただきたい。「結婚は素晴らしい」「子育ては素晴らしい」ということを若い世代に伝えない限り、結婚は増えないと思うので、皆さんにもご協力いただきたい。

### 【山田委員】

前回の会議を振り返ると、皆さんが課題に一生懸命取り組んでいるが、結果が出ず、スピード感がない。その中でキーワード「環境づくり」「仕事をつくる」「男女を問わず一緒に」、また、今までは必要でないという固定観念があった「農業者の経営について考える機会」「出やすい環境」、そういうこと一つ一つがヒントになる。

まずは、散漫的な取組にならないようにしていただきたい。アンケート調査の「独身にとどまっている理由」であるが、独身が悪いかのような気がする。結婚したい人には、結婚は素晴らしい、パートナーができることは素晴らしいと感じ、踏み出せる環境になるよう取り組むのであれば分かる。「まだ必要性を感じない」「自由さや気楽さを失いたくない」「異性とうまくつきあえない」など、岡山と全国の数値に開きのある部分は、さらに男女の数値の差を見てもよいのではないかと思う。「子育てをして感じること」については、子育てをしていて「楽しい」「ほぼ楽しい」という人は増えているのか、経年の意識の変化がわからないと何とも言えない。

ふるさと暮らし希望地域ランキングで岡山が上位なのは、県民としてうれしい。移住する年代

で求めるものは違う。定年退職後のセカンドライフ、子育て世代、どの年代であっても岡山では生き生き過ごすことができることを、もっとアピールできるといい。そういう意味で、何ができるかをもう少し踏み込んで考えなければいけない。

目指すべき将来の方向の「出生率の向上を図り、自然減に歯止めをかける」で言葉が止まってしまうと、その後の子育て支援はどうなるか。私は仕事の両立支援がとても大事だと思う。仕事、地域、子どものこともしたいという人たちが増えている中で、何ができるのかということにもっと踏み込まなくてはならない。女性の場合、結婚しないのは、おそらく独身を謳歌していて、その後の素晴らしい生活があまり見えないからではないかと思う。

働いている女性へのアンケート「2人目、3人目を産んでもいい」という項目では、男性が子育てに関わっている人ほど「産んでもいい」と思っていた。イクボス宣言ではないが、男性の意識改革、岡山県は男性が子育てに関わっていると見えるデータがあると、イメージが変わり、出生率や人口増に繋がっていくのではないかと、また、社会増もあり得る。

### 【足羽副知事】

「意識」「認識」教育とは違う「学習」に重点を置き、それにより住みやすさ、生活の態度、自分の行動が変わってくるころがある。確かに戦略の中は書きづらいが、工夫しながら意識や認識を書き込めたらいいと思う。

産業、教育、地域づくりなどいろいろあるが、地域、家庭、年齢、家族構成などにより、皆さんが求めるサービスが違うので、そのあたりをどう細かく提供していけるか。

また、どのようにアピールするかによって、同じことをしていても「こんないいことがある」と分かるので、PRをもっと考えていく必要があると思った。

行政ができることと、NPOや地域の皆さんでできることを、きっちりと分ける必要はないが、「ここまでは行政、ここからはNPOにやっていただく」という仕切りのようなものがあつた方が逆にやりやすいかという感覚を持った。

### 【河島委員】

民間企業が久米南町の農村、棚田を新入社員の研修の場とし、地域の方もお手伝いした。農村や自然を知り、住んでみたいというきっかけになるよう行政もできることは努力する。どのぐらい実になるかわからないが、空家もあるので住んでもらえればいいと思っている。

### 【金澤委員】

県教育委員会が高校を卒業して就職した人を追跡した山陽新聞の記事があつた。離職率が非常に高いが、労働局は追跡調査ができていないということだ。学校の負担にもなるが、就職した生徒をきちんとフォローするとか、就職する前に雇用のミスマッチが起きないように間に入らないと結局辞めてしまう。次の就職はなかなかいいところはない。結果として、非正規や派遣で働かざるを得ないという状況になる。教育の一部ではあるが、力を入れてもいいのかという気がする。

### 【河島委員】

民間企業も、採用してもすぐ辞められては困るので、現場に出すのではなく、みんなで力を合わせることを3日なら3日、それを何回かのクールですと言われていた。

**【加藤委員】**

理想の子ども数より予定子ども数が少ない理由に「子どもに係る経済的負担が大きいから」と、あるが、この内訳、岡山県はどのぐらい教育費に税金を投入しているのか、全国との比較などを教えていただきたい。

**【山田委員】**

子どもを保育所に預けようとするときに、「核家族じゃないとポイントが高くなる」と言われ預けられない状況を聞く。要するに同居していると、見てもらえる人がいるのでポイントが下がり、入所できない。わざわざ別居し、おかしなことになっている。祖父母といっても、地域ボランティアや他にやるべきことをお持ちの方が多く、必ず子どもを見られるわけではない。それを奪ってまでという、またおかしな話だ。入所要件を助けるようなものができるといい。公正公平にという、市町村も何らかの点数評価をしないといけないので、単独ではたぶん難しいと思う。

**【足羽副知事まとめ】**

全国の移住希望ランキング3位という、一過性の時期にスピード感を持って対応しなければならぬ。あの時にしておけばということにならないようにやっていきたい。

文言にどう書くかは個別になるが、そういう意識を持って事業をしたいので、これからもご意見をいただきながら完成させていきたい。